

第71回 福島県PTA研究大会 二本松大会報告

ほんとの空のもと

変化の激しい時代を生きる子どもたちに明るい未来を!

～ 人と人とのつながり 伝統文化を大切に～



智恵子の生家・智恵子記念館

令和5年11月12日(日)

主催 福島県PTA連合会
主管 安達地方小中学校PTA連合会

P T A の 歌

春日紅路・作詞／西條八十・補作詞／古関裕而・作曲／宮本 一・編曲



はるかぜそよそよふくまどに ことりもくるくるとんでくる



あかるいまーどーよ ほほえむかおよ



さくらのーはなさくはるのうたー



みんなでいっしょにうたおうよ

一、春風そよそよ 吹く窓に

小鳥もくるくる とんで来る

明るい窓よ ほほえむ顔よ

さくらの花咲く 春の唄

みんなでいっしょに うたおうよ

二、みどりに輝く 学校が

明るい家庭を よんでいる

希望の町よ 希望の村よ

文化の光に 手をのべて

子どもといっしょに 進もうよ

三、あふれる力に 健康に

子どもがよんでる おどってる

みよりの秋よ もみじの丘よ

こころも楽しい ハイキング

子どもといっしょに おどろうよ

四、世界を結んだ 大空に

ひびいて子どもの 胸が鳴る

あしたの鐘よ 夕べの鐘よ

平和で住みよい 日本を

みんなでいっしょに つくろうよ

第71回福島県PTA研究大会二本松大会

ほんとの空のもと

変化の激しい時代を生きる子どもたちに明るい未来を!

～ 人と人とのつながり 伝統文化を大切に～

1 趣 旨

東日本大震災から12年、私たちは一丸となって復興への歩みを進めてきました。しかし、そうした中であって、新型コロナウイルスや地震、情報化や戦渦など、現代社会には、様々な課題が次々と浮上し複雑に絡み合う変化の激しい時代となりました。

高村智恵子のふるさと二本松には「ほんとの空」があるといえます。

澄みきったほんとの空のもと、福島県のPTA会員が日頃の研修や実践を持ち寄り、広い視野から研究協議と情報交換を行い、会員相互のネットワークづくりを図ります。また「学びの変革」が求められる現代の教育において子どもたちの明るい未来のために、PTAが取り組むべきことは何かを一緒に考えて参ります。

2 主 催 福島県PTA連合会

3 共 催 二本松市教育委員会 本宮市教育委員会 大玉村教育委員会

4 後 援 福島県教育委員会 福島県小学校長会 福島県中学校長会
福島県市町村教育委員会連絡協議会 公益財団法人日本教育公務員弘済会福島支部
二本松市 本宮市 大玉村

5 主 管 安達地方小中学校PTA連合会

6 期 日 令和5年11月12日(日)

7 会 場 二本松市
<全体会> 城山総合体育館
<分科会> 城山総合体育館 城山第二体育館 二本松第一中学校体育館

8 日 程

12:00	12:20	13:00	14:40	15:10	16:30
受付	全体会	講演準備	記念講演	移動	分科会 ※分科会ごと閉会

13:10

9 参加者 福島県内PTA会員及び関係者(約600名)

10 記念講演 演題 「演じることは生きること」
講師 女優 一色 采子(大山 采子)氏

全体会スナップ

【開会のことば】



福島県 PTA 連合会副会長
安藤 正希

【PTA の歌】



【主催者あいさつ】



福島県 PTA 連合会会長
鈴木 崇史

【来賓祝辞】



福島県教育長代理 社会教育課長
鈴木 正和 様

【歓迎のあいさつ】



二本松市長
三保 恵一 様

【感謝状・表彰状贈呈】



【受賞者代表あいさつ】



前福島県 PTA 連合会会長
平塚 康晴 様

【大会宣言】



二本松大会実行委員長
出川 正人

【福島県 PTA 連合会旗引き渡し】



次期開催地 郡山市へ

【次期開催地代表あいさつ】



郡山市 PTA 連合会会長
橋本 洋介

【閉会のことば】



福島県 PTA 連合会副会長
張崎 貴裕

記念講演

演題 「演じることは生きること」

講師 女優 ^{いっしき} ^{さいこ} 一色 采子 (大山采子) 氏



<プロフィール>

日本画家 大山忠作 (二本松市出身) を父に東京に生まれる。

本名 (芸名) 大山 采子 (一色 采子)

女子美術短期大学卒業後、1986年「警視庁殺人課」でデビュー。その後、テレビ、映画、舞台など出演多数。2004年に、母が死去して以降芸能活動を休止し、父の仕事のサポートに専念。父の他界後は、2012年「男の花道」(ル・テアトル銀座)で復帰。以後、舞台を中心に活動している。大山忠作美術館にて、2013年「五星山展」2016年「さくら展」2019年「新五星山展」をプロデュースし、延べ64,000名を動員している。

《講演の紹介》

父大山忠作は、染物屋に生まれ「神童」と呼ばれた。東京の親戚と養子縁組をするが、父を軍人にしたかった養父の反対を押し切り、美術の学校へ進学。しかし、学徒動員を受け特攻隊員となった父は、小隊長としてフィリピンに渡る。その後、台湾に向かう船が爆撃を受け、沈没。マニラ湾で救助された。戦争が終わり、帰国後に秋の日展を見に行き、次の春の日展で初応募、初入選を果たした。院展にも入選し、35歳にして、新進気鋭の作家となる。そして、私が誕生。無口な父だが飲むと朗らか。叱られたことも、褒められたことも、勉強しろとも言われたこともない。一度だけ、「兄弟げんかをするな」と言われただけ。「勉強はしなくてよい。それでも毎日学校へ行け」と言われていた。ほぼ会話はなかったが、それでも父を尊敬している。

私はと言うと、きれいなものが好き。祖母に買ってもらった扇子で喜んでいたり、それがきっかけで踊りを学ぶことになり、「上手ね」「かわいいね」という周りの言葉が私の原体験となった。女子美術短大に入った私が女優になったきっかけは、二十歳のときに、月刊プレイボーイでグラビアを撮影したこと。それが目に留まり、菅原文太さん主演のドラマで、女刑事役としてテレビデビュー。それからは、一つずつ丁寧に仕事を積み重ねてきた人生だった。松平健さんに「美人なだけでなく(笑)演技もできる女優」と認められたことはうれしかった。そんな中、母親に癌が見つかる。仕事を休み、母のため一緒に過ごすことを決めて、かけがえのない6カ月を過ごした。母の死後は、父のサポートに徹することにした。震災もあり、仕事を8年間離れた。母亡き後は、父の絵を二本松市に寄贈することを決め、父も美術館の完成を楽しみにしていたが、見ることは叶わなかった。私は、最近舞台に復帰し、60歳を過ぎてなお、伸びしろがあるものと信じている。

父にとって絵を描くことは生きることだった。線が引けなければ死を選ぶ人だった。私は、少し違って、演じられなければ生きる意味はないなどと言うことはない。それでも、私は日々演じている。「悪口を言わない」「自慢しない」「井戸端会議をしない」「ありがたうを言う」「不機嫌な顔をしないで、いつもスマイル」そんな自分を演じている。偽善だと言う人もいるかもしれないが、私は、心からそう思っている。これらのことを、いつも心がけていれば、それが地になると思っている。私は、生涯をかけて、そういう人間を演じていきたいし、その道の名優になりたいと思っている。

テーマ コミュニティ・スクールと 地域連携におけるPTAの関わりは どうあるべきか



発表1 「国見町の取組について」

◎ 発表者 国見町教育委員会 教育総務課管理主事 阿部 央 様

発表2 「『地域とともにある学校』を支えるPTAの取組」

◎ 発表者 いわき市立田人小・中学校PTA会長 蛭田 友子 様

指導助言 ◎ 指導助言者 文部科学省総合教育政策局 コミュニティ・スクールマイスター
ふくしま学校と地域の未来研究所 代表 安齋 宏之 様

1 発表1

- ・国見町では、町内すべての幼児学校を1つの学園としてとらえ、平成26年12月に「国見学園コミュニティ・スクール委員会」を設置した。「・自ら学ぶ力をはぐくむ・豊かな心をはぐくむ・健康な体をはぐくむ・郷土愛をはぐくむ」の4つを柱に、「自ら学び、心豊かでたくましく、郷土を愛する国見の子の育成」を目指して教育活動に取り組んでいる。
- ・委員会は、学識経験者2、地域住民5、保護者5、設置校等の長4、その他4、計20名で構成され、年5回開催している。※第1回と第5回は地域学校協働本部運営委員会と合同開催。
- ・委員会では、毎回テーマを決めて熟議を行い、出された提案や意見に優先順位をつけ、実現に向けた具体的な取組の検討、町への要望書提出など、家庭・地域・学校等をつなぐ接点となるよう活動している。

2 発表2

- ・田人方部の小・中学校9校の統廃合により、平成26年に田人小・中学校が創立。平成28年4月に学校運営協議会が設置され、いわき市最初のコミュニティ・スクールとなった。
- ・地域ならではの事業を継続・発展させ、体系化を図る「田人ブランド」の確立に向け、学校運営協議会からの提案を基に、学校経営・運営ビジョンの「地域とともにある学校」を具現化すべく、PTAは特色ある教育活動を支援している。
- ・学校運営協議会が核となり、PTA及び地域による「①授業 ②学校行事 ③学校内外の環境整備、安全管理等 ④地域での子どもたちの活動（夏休みに実施する体験活動の企画、里山登山等）⑤地域ボランティア（放課後子ども預かり、絵本読み聞かせ等）」への支援を行っている。子どもの成長を実感し、協力することの喜びを感じながら関わっている。

<質疑応答>

Q：田人小・中学校の、放課後子ども預かり支援は無料なのか。

A：小学校を借り、無料で地域ボランティアとPTAで運営している。

3 指導助言

- ・国見町は家庭・学校・地域が目標を共有し、課題に基づいたテーマで熟議を行い具体的な取組につなげている点が素晴らしい。田人小・中学校は、PTAの高い意識のもと地域資源を活用した取組を行い、学校運営の一翼を担っている点が参考になる。
- ・コミュニティ・スクールの目的や意義、仕組み等についての解説及び実際の取組について、本宮まゆみ小を例にお話しいただいた（内容の詳細は省略）。
- ・「いい地域は、いい学校を育てる」、「いい学校は、いい地域をつくる」をモットーに、これからのPTA活動には、「①学校経営への積極的な参画 ②当事者意識を高め、目標に向かった主体的な活動 ③学校と地域のコーディネートと情報発信」を期待したい。

<質疑応答>

Q：本宮まゆみ小の児童が身に付けたい4つの力に、キャリア教育の「基礎的・汎用的能力」を取り入れた理由は。

A：熟議の結果、保護者の願いがキャリア教育で目指す力と一致したため。

テーマ 子どもの言動を捉え拓く家庭の在り方

講話 「患者との医療面接から見えてくるもの」

◎ 講師 銀の森治療院院長 渡邊 健 様



1 講話内容

子どもの言動を捉えることと、患者の状態を捉えることには共通点がある。患者を診察する際に用いられる医学的方法として『医療面接』といったものがあり、これまでは『問診』と呼ばれるものが主流であったが、問診は「痛みはありますか？」「熱はありますか？」といった閉ざされた質問から成り立っているのに対し、『医療面接』では病気の原因や経緯など病気に至った様々な要因に広く関わりながら、患者と医者との双方向の関係性を作り上げていくことを重点としている。この医療面接から得られる情報は、症状の原因の8割を占めるとも言われている。

患者へのアプローチの中で非常に高い重要性を持つものとして「未来を考えること」といった内容がある。これからどんな未来を描くのかを患者とともに考えることが患者との関係性を高める上で重要である。また、患者に関心を持つことや病気そのものだけを捉えるのではなく、その状態に至る状況を時系列で捉えることも関係性を高める上で重要である。病気を治す際には病気一点にのみ目を向けるのではなく、様々な要因を広く捉えていくことが重要なのである。

上記に捉えた「患者」を「子ども」と、「医者」を「家族」と読み替えるとどうなるだろうか。病気を治療していく上で患者と医者との関係性を高めていくことは、子どもと家族が関係性を高めていくことと共通していると捉えられることに気づく。子どもの言動を捉え、悩みに寄り添う時には、様々な要因を広く捉えていくことが大切である。

また、子どもと接する上で大切なものとして「子どもの尊厳を重視する」というものがある。親から一方的に「～しなさい」と押しつけるのではなく、説明を通して承諾を得るといった子どもの尊厳を重視した関係性が子どもを育てていく上で大切であり、これも医療従事者として行っている「説明責任」と「治療に対する承諾」に通ずるものがある。そして最も大切なことは「子どもを褒めて、認める」こと。子どもに愛情を持ちながら行動に対し褒めて認めることを繰り返すことで、子どもの成長の度合いは大きく変わってくる。認められること、関心を持たれることは子どもの意欲に大きく関わる部分なのである。そして、「学」（旧字体）の字の形は「子どもを家の中で包み込む」という意味を表しており、



2 質疑応答

Q: 医療におけるインフォームド・コンセントはペアレント・トレーニングに通ずるものがあるのか。

A: 医療現場でも教育現場でも、また家庭においても人と人との関係性は共通しており、命や尊厳、存在を認め合うことが何より大切である。



テーマ メディア社会における親子の コミュニケーションの在り方

講話 「ゲーム・ネットにのめり込む未成年への親の関わり方」

◎ 講師 精神保健福祉士 公認心理師

ASK認定依存症予防教育アドバイザー 増田 貴久 様

1 講話内容

(1) 令和の子どものゲーム・ネット文明の現状

- ・12歳の85%が個人のスマホを持っている。
- ・スマホの契約なしでスマホを子どもに持たせている形態が増えてきている。
- ・スマホ利用時間 R3平均3時間→R5平均5時間
- ・欧州に比べると日本はICT機器を使う時間は短いのが現状である。
- ・一概に悪いとは言えない。

(2) のめり込む子どもへの対応

- ・夢中・熱中・依存の区別が必要である。
- ・ゲームにのめり込んで授業に集中できないから、ゲーム依存症ですよ。という言葉はよく聞く。
- ・スポーツや趣味はよくて、ゲームはダメ!? それでよいのだろうか??
- ・ゲームも他のものと同類項と最初は見てほしい。
- ・どんな気持ちでやっているかを見分ける必要がある。
- ・楽しい わくわくする もっとやってみたい。ルール範囲内でやらせてあげる。

(3) 厳しく接する必要があるのではないか??

- ・親(大人)に隠れて使用する危険性が出ている。
- ・Free Wi-Fi を拾って隠れスマホを使ってしまわないよう、一緒に安全に使えるルールを作っていく。

(4) 守れていないルールがあるよりは「ない方がまし」

- ・子どもは、親が注意(注目)する行動を繰り返す。
- ・親は、ダメな時に注意すると、今後注意される行動が増える。
- ・よい行動を認めると、今後認められる行動が増える。
- ・親は、子どもが守れたかを確認できるルールを作る。
- ・親がルールを確認でき、子どもはルールを守るとメリットがあることが大事である。
- ・バランスよくメディア使用の時間を認めていく。
- ・守れるルールを常に変えていく。

(5) 制限は依存予防効果があるのか?

- ・「制限すると失敗する」という歴史を繰り返してきた。
- ・自由を奪い、依存しなければならない制限を取り除いていくことが大切である。
- ・依存症は孤立の予防で効果があがる。
- ・罰を与えることは逆効果であることが研究から明確になっている。

(6) 増田さんの経験談

- ・不登校になり、自殺を考えていた。飛び降りる前にやり残していることはないかを考えたら、ドラクエ3をクリアしていないことが心残りだった。ゲームをやっている間は全てを忘れられた。
- ・そんな思いでゲームをしている子どももいるかも知れないので、ただ、取り上げるのではなく、見守る体制を取ってほしい。

2 質疑応答

Q: 親が夢中になってしまった場合、子どもにどのような影響があるか。

A: 保護者の心に何があるのか、保護者が困っているのではないか、保護者が孤立してしまわないよう、雑談をするなどして保護者も心の問題を解決する。

大会スナップ

【城山総合体育館】



【入り口看板】



【入り口の様子】



【受付の様子】



【来賓控え室の様子】



【全体会会場の様子】



【全体会の様子】



【駐車場の様子】



大会スナップ

記念講演（一色采子氏）～城山総合体育館～



第1分科会：地域連携 ～城山総合体育館～



第2分科会：家庭教育 健康安全 ～城山第二体育館～



第3分科会：健全育成 ～二本松第一中学校体育館～



大会宣言

私たちは、「ほんとの空のもと 変化の激しい時代を生きる子どもたちに明るい未来を！～人と人とのつながり 伝統文化を大切に～」の大会主題のもと、ほんとの空が見える安達太良山のふもと、この二本松で、県内各地より会員及び関係者 600 余名の参加を得て、第 71 回福島県 PTA 研究大会二本松大会を開催いたしました。

変化の激しい時代、私たちの周辺では様々なことが起きています。2011 年に起きた「東日本大震災」や 2020 年に国内で初めて感染が確認された「新型コロナウイルス感染症」、2022 年から続く「ウクライナ侵攻」などこの 10 余年の間に子どもたちの生活を脅かす事象が繰り返し起こっています。また、ネット依存症や不登校の問題、虐待やいじめなど、子どもたちを取り巻く環境は様々な問題を抱え、依然厳しさを増しているように感じます。

今回の研究大会では社会情勢が目まぐるしく変化する中、「子どもたちの明るい未来」のために「大人が今できること」を考え、PTA として、そして地域社会の一員として、さらには、福島県に生きる大人として、具体的に実践することの大切さを学ぶことができました。

私たちは、学校だけでなく家庭や地域とともに困難な時代を乗り越え、福島の子どもたちが安心して暮らしていける「明るい未来」の構築に向けて次のことを決議いたします。

決議

- 一 私たちは、すべての会員の意識の向上と PTA 活動の活性化を図るため、会員相互が力を合わせ、関係諸機関や各種団体と積極的に連携した PTA 活動を推進します。
- 一 私たちは、社会の変化や要望に対応できるよう、絶えず自己の研修に励み、子どもたちと共に伸びゆく PTA 活動を推進します。
- 一 私たちは、子どもたちが将来自分の夢を実現できる、健康な心と体を育む PTA 活動を推進します。
- 一 私たちは、子どもたちを取り巻く多くの問題に対して理解を深め、子どもたちの健全育成に努めるとともに、安全確保のために、家庭・地域・学校が連携した PTA 活動を推進します。
- 一 私たちは、特別な支援を必要としている子どもたちの理解を深め、共に生きる社会の実現を図るとともに、子どもたちの豊かな心を育むための PTA 活動を推進します。

令和 5 年 11 月 12 日

第 71 回福島県 PTA 研究大会二本松大会



福島県PTA連合会

福島県PTA連合会

〒960-8153 福島市黒岩字田部屋53番地の5

福島県青少年会館内

TEL 024-545-5982

FAX 024-545-5990

Email: office@fukushimaken-pta.jp

第71回福島県PTA研究大会二本松大会実行委員会

〒964-0904 二本松市郭内二丁目56番地1

二本松市立二本松第一中学校

TEL 0243-23-0870

FAX 0243-22-8977

Email: nihonmatsul-j@fcs.ed.jp